

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 自己の能力に適した新しい技ができたり、できる技を上手にしたりする。
- (思・判・表) 自己の能力に適したためあてを決め、その達成を目指して練習を工夫する。
- (学びに向かう力等) きまりを守り互いに協力したり、安全に気を付けたりしながら、根気強くマット運動をしようとする。

ICT活用のポイント

技能の客観的な理解と児童同士の学び合いを意識した授業

事例の概要

【つかむ】

各自が取り組む課題について、学習カードを用いて確認する。

課題別に班に分かれて動画撮影を行い、自分の姿を客観視して、友達に助言をもらいながら、技の精度を上げた。

【追究する】

友達同士で助言し合いながら各自の課題解決に向けた練習をする。

【事例における I C T 活用の場面①】

- I C T 端末のカメラ機能を用い、自分や友達の動きを動画撮影することで、技のポイントが押さえられているかを確認する。

【まとめる】

自分の技の精度の高まりを確認する。

【事例における I C T 活用の場面②】

- 撮影した映像を班で共有し、互いに助言し合う。
- 撮影した動画を教師に送り、学級全体で共有する。

【体育・小4・「マット運動」】②

【事例におけるICT活用場面①】



考えを追究する過程において、各自の課題解決に向けた練習をする際、I C T 端末のカメラ機能を使い動画撮影を行った。

教師は、児童が技のポイントを意識し、客観的に自分の姿を捉えられるよう「撮影の際は、どの角度から撮ってもらいたいか」を友達に伝えることを指示した。また、客観的に動きを捉え、技の精度を高めるヒントとして参考にできるよう、「お互いに撮影した映像を見て、気付いた点などがあれば伝え合う」ことを事前に助言した。

マット運動に苦手意識のある児童も進んで取り組めるように、課題別のグループ編成にしたうえで、学習カードや教師の個別の声かけによって、技のポイントや意識する点を確認できるようにした。

【事例におけるICT活用場面②】



撮影した映像を班で共有する場面では、グループで撮影した動画と技のポイントとを照らし合わせ、出来ばえを確認させた。児童は進んで自分の動きを確認したり、互いにアドバイスをしながら練習を進めた。

まとめる過程では、学習支援ソフトを使い、撮影した映像を教師に提出させ、技の向上を学級全体で共有した。

I C T 端末を活用したことにより、児童が自分の技の精度の高まりを感じ、達成感を味わっている様子がみられた。